

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 17 日現在

機関番号：30110

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2009～2013

課題番号：21390603

研究課題名(和文)働く母親のワークライフバランスと母子相互作用の縦断的研究

研究課題名(英文)Work life balance and mother-child interaction of working mothers

研究代表者

三國 久美(MIKUNI, Kumi)

北海道医療大学・看護福祉学部・教授

研究者番号：50265097

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 5,400,000円、(間接経費) 1,620,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、働く母親のワークライフバランス(WLB)と母子相互作用を縦断的に明らかにすることである。郵送法による質問紙調査を実施した結果、母親のWLB得点の平均値は、子どもが12か月、18か月、24か月、30か月、36か月の5時点で、いずれも60点を超過しており、20～60歳の男女2500人を対象とした内閣府の調査の平均値51.2点よりも高値であった。本調査対象者の半数以上が、家族の協力や職場の理解を得られていたことから、出産後も就労を継続する女性は、WLBを保つことのできる環境下にあると考えられた。また、観察された母子相互作用は、日本人母子のデータベースと比較し、より良い状態であった。

研究成果の概要(英文)：This study examined the work life balance (WLB) and mother-child interaction of working mothers. A longitudinal postal questionnaire survey was conducted on working mothers with infants attending nursery. The WLB of the working mothers ranged from 63-71 points. Compared to the nationwide survey, this survey revealed higher WLB scores. The majority of working mothers received good support from colleagues and family members and had high levels of satisfaction with childcare. These circumstances are believed to have enabled them to achieve a better WLB than general workers. The mother-child interaction was assessed by J-NCATS. Total J-NCATS scores at 0-11 and 12-15 months of age were significantly higher than the database score in Japanese dyad. The scores for child at 0-11 and 12-15 months of age were higher than standard deviation of the data in the Japanese dyad database. These results demonstrate that the nursery school environment promotes active interaction among children.

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・地域・老年看護学

キーワード：ワークライフバランス 母子相互作用 就労女性

## 1. 研究開始当初の背景

近年わが国では、女性の高学歴化と社会進出により、共働き世帯の割合が増加している。結婚、出産後も就労を継続する女性が増加する一方で、世間一般の「女性は育児に専念すべき」、「働く母親の子どもはかわいそう」といった考えが依然として浸透している。働く母親は働くことによる子どもへの悪影響に不安を持ち、罪悪感を抱きながら就労していることが明らかになっている。

わが国では、平成 19 年に「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章」が策定された。これにより、仕事か家庭のいずれかを選択するのではなく、仕事も家庭も大事にしながらバランスを取って両立させていく、すなわちワークライフバランス(WLB)の実現のための社会全体の取り組みの重要性が示された。

先行研究を概観したところ、働く母親の WLB と母子相互作用の実態、それらの関連要因は明らかにされていない。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、保育所に子どもを預けて働く母親とその子どもを対象とした縦断的調査を行い、働く母親の WLB と母子相互作用およびそれらの関連要因について明らかにすることである。

## 3. 研究の方法

### (1) 研究対象者

子どもを保育園に預けて働く母親とその子ども 241 組。

### (2) 調査方法と分析方法

#### WLB とその関連要因

子どもの月齢が 12 か月、18 か月、24 か月、30 か月、36 か月の 5 時点で郵送法による質問紙調査を実施した。WLB は、「あなたの仕事と家庭のバランスの取り方について、理想を 100 点とすると現実は何点でしょうか」と尋ねた。また、WLB の関連要因として、母親の特性、子どもの特性、母親の就労状況、子どもの保育状況、職場と家族の協力状況、母親の育児および仕事・職場への認識について尋ねた。分析は、統計解析ソフトを用いて、WLB 得点との関連を検討した。

#### 母子相互作用

子どもが 0～11 か月(以下、12 か月未満)、12～15 か月(以下、12 か月)および 18～21 か月(以下、18 か月)の時点で、対象とした母子の遊び場면을撮影し、日本語版 Nursing Child Assessment Teaching Scale (J-NCATS) を用いて母子相互作用を測定した。J-NCATS は、Barnard らが開発した Nursing Child Assessment Satellite Training (NCATS) の遊び場面における母子相互作用を測定するツールである NCATS (Sumner et al, 1994) を廣瀬ら (2006) が日本語版とし

て開発したものである。J-NCATS は、母親と子どもの遊ぶ場면을観察して得点化する尺度であり、母親に関する 4 つの下位尺度(「子どもの cue に対する感受性」、「子どもの不快な状態に対する反応」、「社会情緒的発達促進」、「認知発達促進」と子どもに関する 2 つの下位尺度(「cue の明瞭性」、「養育者に対する反応性」)の計 6 下位尺度(73 項目)で構成され、さらに親と子のそれぞれの随伴性得点も算出される。いずれも高得点が良い相互作用であることを意味する。なお、測定したデータの信頼性を確保するために、20% の遊び場면을録画した DVD を無作為に抽出して、2 度の測定を行い評定者内の一致率が 90% 以上であることを確認した。また、本研究における信頼性係数(KR-20)は、母親の総合得点が 0.757、子どもの総合得点が 0.797 であり、高い内的一貫性が確認された。

分析では、廣瀬ら (2010) による日本人母子のデータベースの数値と本研究対象の母子のデータを比較した。また、子どもの月齢による得点の差異についても検討した。

### (3) 倫理的配慮

本研究の実施に先立ち、研究代表者が所属する大学の倫理委員会の承認を受けた。縦断研究を実施するに当たり、対象者名簿は質問紙とは別に、鍵のかかる書庫に保管し、厳重に管理した。質問紙および撮影した画像を保存した DVD (鍵のかかる書庫に保管) には個人名ではなく ID のみを記載することとした。対象者には、調査の目的、方法、協力の任意性と撤回の自由、個人情報保護、研究成果の公表時に個人情報の厳守に努めることを記載した文書を提示した。

## 4. 研究成果

### (1) 働く母親の WLB 得点

本研究対象者の WLB 得点の平均は、子どもが 12 か月時で 62.6 点、18 か月時で 71.2 点、24 か月時で 66.7 点、30 か月時で 64.8 点、36 か月時で 68.7 点だった。これらの数値はいずれも、内閣府が平成 20 年に実施した 20～60 歳までの男女 2500 人を対象とした調査の平均値 51.2 点よりも高かった。本研究対象者の 89.4% が「家族はとても/だいたい協力してくれる」と回答し、94.7% が育児と仕事を両立して働く自分のことを「職場の人はとても/だいたい理解してくれる」と回答したことから、WLB を保つための環境が整っていると考えられ、このことが WLB 得点の高さに反映したと推測された。

また、特に 12 か月時の WLB 得点が低かったことから、この時期の母親の負担に配慮する必要性が示唆された。

### (2) WLB 得点と関連がみられた要因

子どもが 12 か月時の母親の WLB 得点と関連がみられた要因

仕事や職場に対する認識で WLB 得点との関

連がみられ、仕事にやりがいを感じる母親、仕事の満足度が高い母親、職場の理解度が高いと認識している母親は、WLB 得点が有意に高かった。WLB 得点と、母と子どもの属性、就労・保育状況との関連はみられなかった。

今回の調査により、WLB は保育時間や勤務時間の長さなど就労・保育の実際の状況と関連がみられず、母親の仕事や職場に対する認識と関連することが明らかになった。

仕事にやりがいを感じ、満足度の高い母親ほど、WLB 得点が高かったことから、12 か月児を保育園に預けて働く母親の WLB の実現のためには、母親に関わる周囲の人々が仕事の肯定的な側面を機会あるたびに強調する必要がある。また、母親が職場の人々から理解されていると感じることのできる職場の雰囲気作りが望まれる。

子どもが 24 か月時の母親の WLB 得点と関連がみられた要因

仕事に対する認識では、仕事への満足度が高く、仕事への継続意欲の高い母親の WLB 得点が高いと高かった。また、職場に対する認識では、急に休暇が必要になった場合に休みの取りやすいことが WLB 得点の高さと有意に関連していた。育児に対する認識では、やりがいがある、子育てへの自信がある、子育てに負担感が少ない、子育てに満足していると感じている母親の WLB 得点が高いと高かった。一方、母と子どもの属性・就労・保育状況および家族に対する認識と WLB 得点との関連はみられなかった。

2 歳児をもつ働く母親の WLB は、就労形態や勤務時間、保育状況とは関連がみられず、母親の仕事に対する認識と急な休みの取りやすさ、育児に対する認識が WLB 得点と関連がみられた。働く母親の WLB の実現のためには、母親が仕事に満足し継続したいと思えるような周囲の人々による仕事に対する精神的支援はもちろん、子どもの病気などで、急に予定外の休暇をとる場合の対応など、職場の上司・同僚や雇用者側の体制作りに対する働きかけも必要になるであろう。また、育児と仕事を両立している母親が、自分の育児を肯定的に認識できるような支援体制の充実が必要であり、家族や友人、医療、保育の専門職などが、いつでも必要なときに母親の相談に乗り、負担を感じることなく育児ができるような体制作りが望まれる。

子どもが 36 か月時の母親の WLB 得点と関連がみられた要因

仕事や職場に対する認識で WLB 得点との関連がみられ、仕事内容の満足度が高く、母親に対する職場の人々の理解度が高いと感じている母親ほど、WLB 得点が高いと高かった。また、仕事と育児を両立することへの葛藤を強く感じている母親の WLB 得点が高いと低かった。仕事の内容、就業形態、勤務時間など、実際の就労状況とは関連はみられなかった。

本研究のこれまでの結果を踏まえると、子どもの年齢が上がっても一貫して就労や保育の実際の状況と WLB 得点との関連がみられていないことから、働く母親の WLB を実現させるには、育児と仕事を両立することに対する母親自身の認識が肯定的になるように職場や家族など周囲の人々が働きかけることが重要になると考えられた。

### (3) 働く母親と保育園児の母子相互作用

本研究に協力が得られた働く母親とその子どもの相互作用は、子どもの下位尺度得点全てにおいて、日本人母子のデータベースの平均得点を上回っていた。中でも子どもの月齢が 12 か月未満、12 か月の時点で、子どもの下位尺度「養育者への反応性」および子どもの総得点は高く、日本人母子の平均得点の 1SD を超えていた。さらに子どもの月齢が 12 か月未満、12 か月および 18 か月の 3 つの時点で母子相互作用を比較したところ、母子の総合得点、子どもの総得点、子どもの下位尺度「養育者への反応性」、子どもの随伴性得点において、12 か月時点の数値がほかの月齢に比べて最も高く、母親の下位尺度「社会情緒的発達の促進」では、12 か月未満の時点がほかの月齢に比べて最も低かった。

これらのことから、母親の就労や、乳児期からの集団保育が母子の相互作用の質に悪影響を与えることはなく、むしろ良い相互作用ができていたと考えられた。また、子どもの「養育者への反応性」の高さは、保育園で必要な世話を受けるために、子どもは、はっきりと自分の反応をアピールする必要があり、母親との相互作用においても、それが現れたものと考えられた。

## 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 3 件)

三国久美, 齋藤早香枝: 保育所入所児と働く母親の母子相互作用, 日本乳幼児医学・心理学研究, 査読無, 21(2), 77-85, 2012, 12.

澤田優美, 木浪智佳子, 川崎ゆかり, 三国久美, 齋藤早香枝, 草薙美穂: 働く母親の育児困難感の関連要因, 北海道母性衛生学会誌, 査読無, 41(1), 33-35, 2012.8.

齋藤早香枝, 木浪智佳子, 澤田優美, 川崎ゆかり, 三国久美, 草薙美穂: 働く母親の首尾一貫感覚(SOC)と育児との関連, 北海道母性衛生学会誌, 査読無, 41(1), 36-39, 2012.8.

[学会発表](計 7 件)

澤田優美, 三国久美, 木浪智佳子, 川崎ゆかり, 齋藤早香枝, 草薙美穂, 廣瀬たい子: 2 歳児をもつ働く母親のワークライフバランスとその関連要因, 第 65 回北海道公衆衛生学会, 札幌, 2013, 11.

三国久美, 齋藤早香枝, 工藤悦子, 川崎ゆ

かり, 木浪智佳子, 澤田優美, 川合美奈, 草薙美穂, 廣瀬たい子: 働く母親と保育園児の母子相互作用に関連する要因, 第7回乳幼児保健学会, 横浜, 2013, 9.

Yumi SAWADA, Kumi MIKUNI, Chikako KINAMI, Yukari KAWASAKI, Sakae SAITO, Taiko HIROSE, Miho KUSANAGI: Work Life Balance of Working Mothers of Japan, The 5th international conference on community health nursing research, Edinburgh UK, 2013, 3.

澤田優美, 三国久美, 齊藤早香枝, 木浪智佳子, 川崎ゆかり, 草薙美穂, 廣瀬たい子: 乳幼児を保育園に預けて働く母親のワークライフバランスとその関連要因, 第5回乳幼児保健学会, 東京, 2011, 10.

澤田優美, 齊藤早香枝, 木浪智佳子, 川崎ゆかり, 三国久美, 草薙美穂: 働く母親の育児困難感の関連要因, 第41回北海道母性衛生学会学術講演会, 札幌, 2011, 9.

齊藤早香枝, 木浪智佳子, 澤田優美, 川崎ゆかり, 三国久美, 草薙美穂: 働く母親の首尾一貫感覚(SOC)と育児との関連, 第41回北海道母性衛生学会学術講演会, 札幌, 2011, 9.

Chikako Kinami, Kumi Mikuni, Yukari Kawasaki, Yumi Sawada, Sakae Saito, Taiko Hirose, Miho Kusanagi: Factors associated with Work Life Balance of working mothers of infants, International Conferences in Community Health Care Nursing Research (ICCHNR) Symposium 2011, Edmonton, Alberta Canada, 2011, 3.

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

三国 久美 (MIKUNI Kumi)  
北海道医療大学・看護福祉学部・教授  
研究者番号: 50265097

### (2) 研究分担者

廣瀬 たい子 (HIROSE Taiko)  
東京医科歯科大学・保健衛生学研究科・教授  
研究者番号: 10156715

草薙 美穂 (KUSANAGI Miho)  
天使大学・看護栄養学部・准教授  
研究者番号: 90326554

### (3) 連携研究者

木浪 智佳子 (KINAMI Chikako)  
北海道医療大学・看護福祉学部・講師  
研究者番号: 40347183

澤田 優美 (SAWADA Yumi)  
天使大学・看護栄養学部・講師  
研究者番号: 00585747

川崎 ゆかり (KAWASAKI Yukari)  
北海道医療大学・看護福祉学部・助教  
研究者番号: 00585755